

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「基本を学び、地域と共に」

高田ロータリー今年の
スローガン

「ロータリーを識り、
奉仕を实践し友情を深めよう」



人類に
奉仕する
ロータリー

2016～2017年度

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム
2560地区ガバナー 田中 政春
高田ロータリー会長 本山 秀樹
幹事 中田 正

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
加藤 卓也 伴 長門 斉藤 光雄 佐藤 芳徳

第44回例会 ■ 6月2日(金)

No.43

直前会長挨拶 ● 水上 喜芳



本日、本山会長は所用のため欠席です。代わって、直前会長の私、ご挨拶申し上げます。

今日は『ロータリー親睦活動月間』となっています。先日、本山会長から、今日の例会でロータリーの『親睦』について、話をしてもらえないかとの話がありました。ロータリーの『親睦』は『奉仕』とともに色々な場で、また多くのロータリアンが語り皆さんよく、わかっておられることと思いますが、あえて話をしたいと思います。ご承知の通り、『親睦』は、『奉仕』とともにロータリーの5つの基本認識、ロータリー章典の中で言う中核的価値観の一つになります。また、同時に『親睦』は1905年ポールハリスがロータリーを創設した当初の2つの理念の中の1つでもあります。ポールハリスがシカゴ・RC初代会長である石炭商のシルベスター・シールと食事をしながら決めた2つの理念とは『親睦』と『会員相互扶助』でした。現在、一方の『相互扶助』は無くなり親睦が現在まで残っているということになります。また、余談ですが『高潔性』や『多様性』などの理念が提唱されたのは、それから随分、後になってからです。ロータリーで言うところの親睦はロータリー章典原文には「Fellowship」となっており、日本語訳で親睦と訳されています。親睦により近いのは「Fellowship」ではなく「friendship」と言うことのようなのですが。因みに、「Fellowship」は志を同じくする仲間どうしと言った意味があるよう

です。このことは、「service」の日本語訳である『奉仕』と一緒に、その言葉が持つ本来の意味と少し違っていると言われているのはご承知の通りです。大事なことは、『親睦』『奉仕』と言ったとき、ロータリーの親睦と奉仕の価値観を世界のロータリアンと共有できることだと思います。また、親睦と言うお互いの交流によって、ロータリー本来の「Fellowship」に近づくことになるのではないかと思います。

本日の卓話は、会員卓話となっており、佐藤信明さんからお話を頂きます。

出席報告

出席率 100%

委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

小熊貞良君——5/22 TeNY テレビ新潟さんのNGT48にいがったフレンドで小熊写真館を紹介して頂きありがとうございます。ありがとうございました。

幹事報告

配布物：週報No.43・高田RC定款及び細則・ロータリーの友6月号

回覧物：ガバナー月信6月号

報告：新会員（境原三津夫氏・飛田剛一氏）の両氏が承認されました。

6/16例会にて高田RC細則についての臨時会議を行います。

会員卓話

葬儀の始まりはお釈迦のお父様の死

佐藤 信明 君



大嚴寺（浄土宗）住職、明照幼稚園理事長の佐藤信明と申します。とても皆様の前で話す立場ではありませんが、せっかく頂いた機会ですので、昨今なにかと話題になっている「葬儀」について私の考えを述べさせていただきます。

葬儀は、釈迦族（しゃかぞく）の王だった浄飯王（じょうほんのう）が、体調を崩して死期をさとり、息子のお釈迦様を呼び寄せた事に始まりました。浄飯王が亡くなると、お釈迦様の教えにより、一族の者達がお花をそなえ、供養し、火葬され、お骨は拾

われ箱に入れられました。これが、今の葬儀の流れ、すなわち、みとり、ご供養、出棺、火葬、収骨、法話となりました。

葬儀には大きな意味があります。それは、亡くなられた人にとっては、この世から来世（浄土宗では極楽浄土）へ旅立つ儀式、すなわち、現世との「区切り」であるということです。この世に生をうけた以上、私たちは死にむかって時を送っているということになります。その間、本当に多くの人達と出会い縁が結ばれます。自分が死に極楽浄土へ旅立つにあたり、出会った人々にお別れをする、自分の人生の締めくくりとなる重要な儀式という事ではないでしょうか。

クラブ協議会～2017-2018年度地区研修・協議会参加報告～ その2



社会奉仕委員会 遠藤次期委員長

1. 社会的弱者の就職支援
2. 地区財団活動資金（地区補助金DDF）の有効活用支援
3. 環境保全のための植樹（ロータリアン1人に1本・第2560地区は2,100本）

以上3点の地区としての事業計画説明があり、各クラブにおいては地区事業計画を踏まえ活発に活動してほしいと要望がありました。

社会奉仕の基本はロータリーの理念であります「親睦と奉仕」を原則とし、各クラブが活発に奉仕活動を行って頂きたいと、締めくくられました。当クラブ社会奉仕委員会といたしましても、新保ガバナエレクト及び橋詰会長エレクトのテーマに沿うべくこれから委員会を開催し、事業計画を検討したいと考えております。



国際奉仕委員会 チャーリー委員

①国際奉仕委員会には、姉妹クラブの友好クラブがあり、特にアジアが多く香港、台湾、韓国等が主流になっています。地区では、万代RCがホノルル、十日町RCがイタリア、加茂RCがロシアと友好クラブを結び交流を行っています。

個人的には、私の母国と友好クラブとして交流できたらと思っています。

②RC財団には、EDFグローバル補助制度があり、条件として3万ドル以上のプロジェクト、テーマとして「平和と紛争」「水と衛生」「母子と健康」等があります。

③青少年交換では、1年交換で3名が準備をしており、それぞれカナダ、韓国、ドイツとなっています。また、短期留学では、3名の女性がドイツに向け、準備をしています。10月まで募集期間がありますので良い候補者がいましたら是非応募して下さい。



青少年奉仕委員会 飯塚次期委員長

○インターアクト

青少年のため、肉体的・性的・精神的虐待から守り、外泊時の男女分け等安全性の維持に努めて行うことが大切であり、学校の担当や校長先生の協力が不可欠である。

○ローターアクト

仕事→地域→世界でリーダーシップを発揮できる人材を30歳までに育てることを目的とし、清掃や募金活動・奨学生、留学生との交流・企業訪問や講師を招く等専門知識の見聞等を行っている。

○次期地区代表 小日向君より

良い点

- ・自己研鑽ができる
- ・ロータリアンとの世代間交流や他地域とも交流し、多様な人脈形成ができる。

問題点

- ・中途退会は少ないが、同年代が固まっていると卒業により大きく減少する。
- ・稼働人数が全会員の3～4割にとどまる。

ロータリークラブの皆様には会員増強にご協力お願いします ということでした。



ロータリー財団委員会 大島誠委員長

- ・年次寄付：一人 150ドル
- ・使途指定寄付（ポリオプラス）：一人 30ドル
- ・ロータリーカード（年会費無料）申し込みの要請

次年度の特徴は「地区奨学生の応募の促進」、「補助金を使った事業への取組の推奨」（グローバル補助金・地区補助金の2種類の事業があります）にあるように思います。

「寄付をすること」以上に、「財団の資金を有効に使う」ことに意識が向いているように感じました。



米山奨学委員会 佐藤委員長

日本最大の奨学会であり、日本のロータリークラブ独自の事業、外国人の大学生、大学院生を中心とした、カウンセラー制度による心の交流をめざすものである。今年度奨学金が全国で15億円を超えたことにより昨年より40名増え、新潟県でも3名増え21名となった。（今年度も21名）

寄付目標額はお一人20,000円でよろしくお願ひします。